



## 「熊本で未来へ放とう、文化の矢。」

を、スローガンに「第12回全国高等学校総合文化祭」が8月30日から5日間、熊本市で開催されました。美術・

演劇・邦楽など、さまざま  
なジャンルに取り組  
む高校生達が一堂に集  
まるこの大会。今年は  
全国から千百校、二万二  
千人が参加し、自慢の  
技を競い合いました。



全国から参加をいただいた高校生の皆さんが、ようこそ熊本へいらっしやいました。心から歓迎をいたします。

いまここへ来がてら、私は自分自身高  
校生のころには、どんなことを考えて  
高校生活を送っていたかなあと、その  
ころのことを改めて思い起こしながら  
この会場に向ってきたところです。

誰でもそうですが、青春時代というの  
は、人生いかに生きるべきかいろいろ  
思い悩む年頃であります。皆さんがた  
の中には、最近よく読まれているサミ  
ユエル・ウルマンの「青春」という詩  
を読まれた方があるかと思いますが、

その冒頭に「青春とは、人生のある一  
定の期間を言うのではなく、心の様相  
を言うのだ」とあります。私もそれは  
全くそのとおりだと思います。たとえ  
75歳であろうと80歳であろうと、すば  
らしい想像力やロマンを持ち、物ごと  
に対する飽くことなき探求心を持ち、

人生に対して闘う気力をもった人は、  
紛れもなく青年であるし、逆に18歳で  
あろうとも、人生に対する真摯な態度  
をもたず、冒険心や挑戦の精神をもた  
ず、闘う気力をもたないものは、それ

は青年の名に値しない—私もそのよう  
に思っております。

私が皆さんに期待するものは、この  
詩にうたわれているように、限られた  
かけがえのない人生というものを、常  
に前向きに思い切りよく生きていつて  
いただきたいということに尽きるわけ  
で、そういう人は、いついかなる所  
でも輝いて見えるもので、又、人にと  
きめきを感じさせてくれるものであると  
思います。

さて、いよいよ文化祭の幕が上が  
りました。日頃培われた活動の成果を存  
分に発揮していただいて、いつまでも  
記憶に残る青春の1ページをここにき  
ざんでいただきたいと願っております。

「高文祭開会式知事挨拶」より